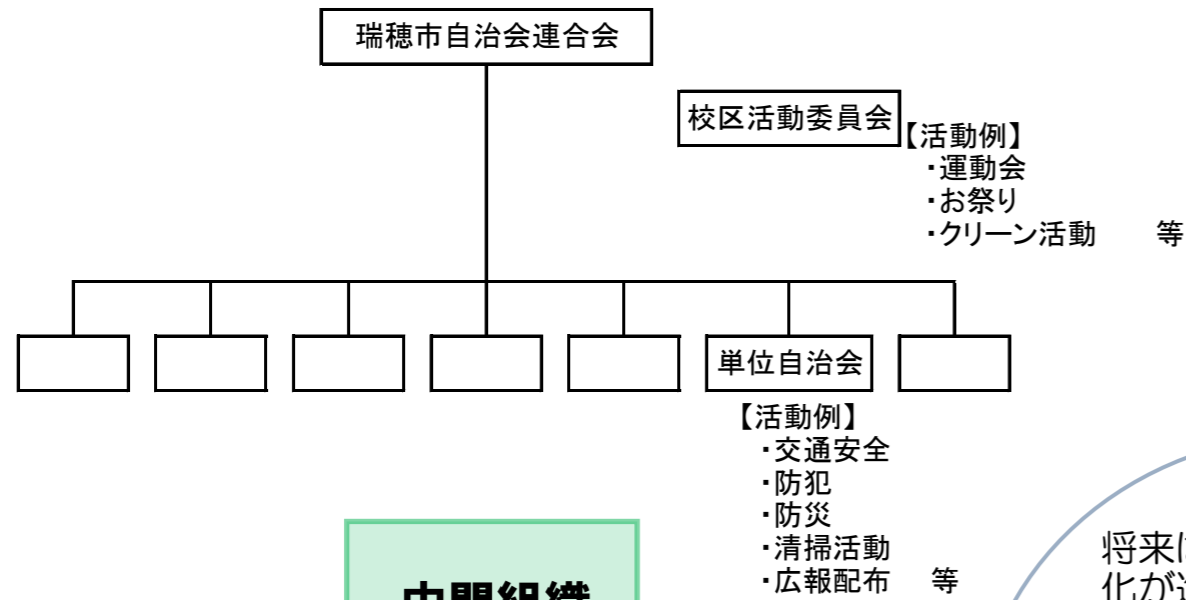


瑞穂市の自治組織の方向性

現在



中間組織
 ●●校区
 連合会が
 できると...

将来は、人口の減少や高齢化が進み、自治会活動もままならない自治会も出てくる可能性があります。

お互い助け合える組織、福祉など、これから必要になってくることを補える組織（連合会）が必要です。

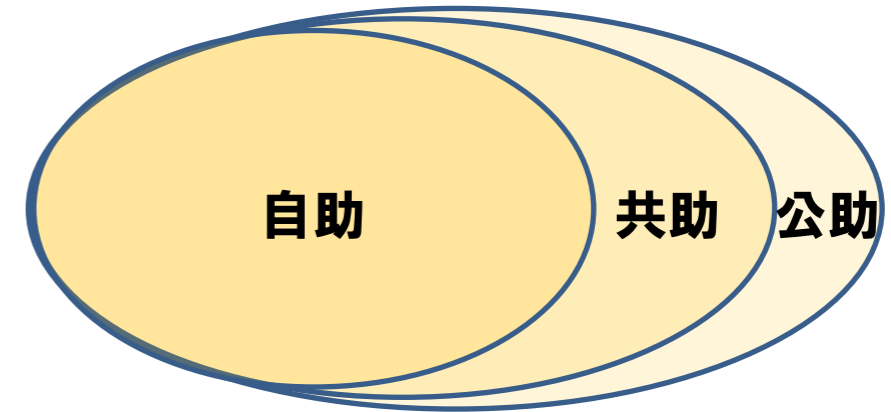
※補完の原則とは...

「身の回りの問題は、まず個人や家庭が解決にあたり、個人で解決できない問題は地域で解決し、それも出来ない場合は行政が解決する。」という考え方は、

ひとつの自治会で対応するよりいくつかの自治会（校区単位）で対応した方が効果的になるかもしれない事業、又は、ひとつの自治会では出来ない事業をひとつ大きな組織で行うことです。

従前どおり、単位自治会で出来ることは、単位自治会で活動を行います。

単位自治会で出来ないことを補完することが校区の連合会組織の役割です。将来的にはそれぞれの活動の必要性や実現性にも変化が生じる可能性も大きいです。

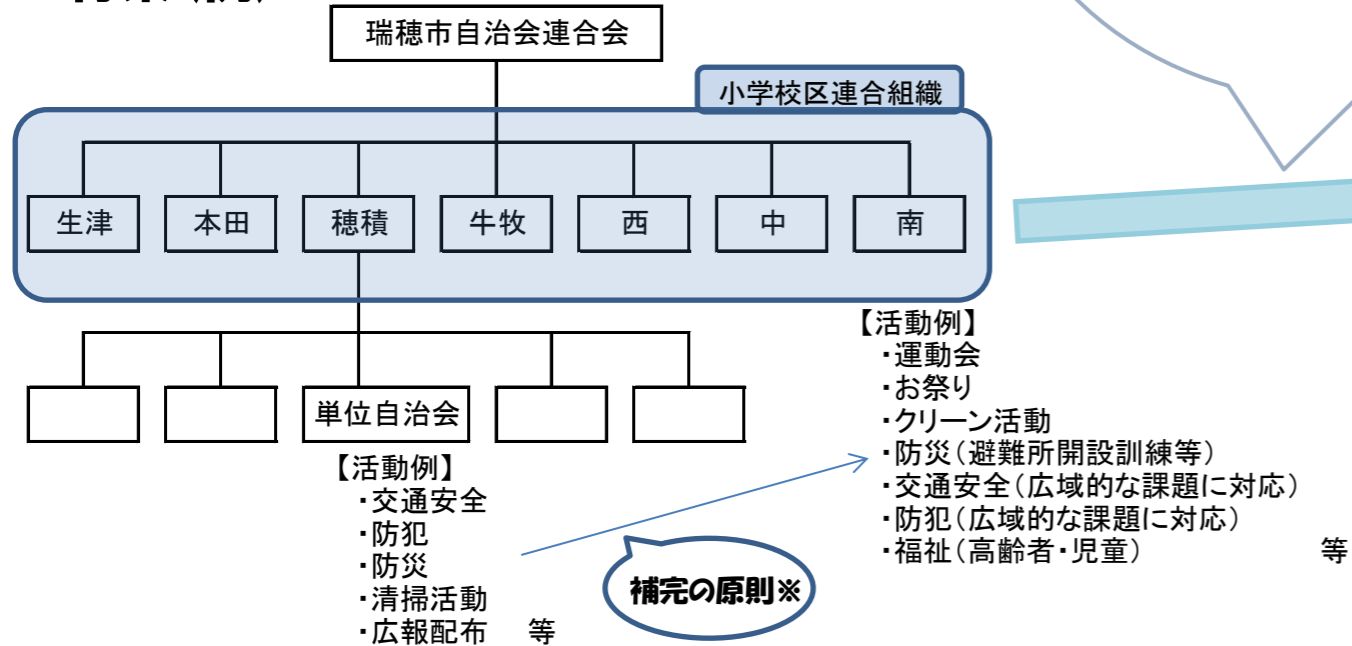


【補完性の原理に基づく優先度】



校区活動委員会をベースとした連合会の1例

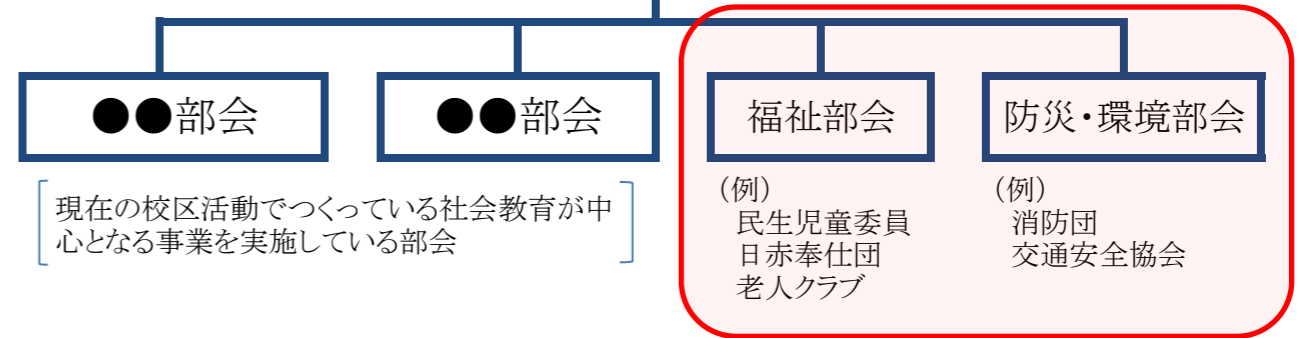
将来(例)



補完の原則※

小学校区連合組織

新設



現在の校区活動でつくっている社会教育が中心となる事業を実施している部会

- ・各部会は、その分野に長けた人、熟知している団体、人を中心に構成します。
- ・部会長は、自治会長である必要はありません。
- ・小学校区連合組織のイメージは、現在の校区活動に今後、必要度が高くなる事業を実施するための部会（例えば福祉部会、防災・環境部会等）を新たに加えるイメージです。

各種団体が集まる機会をつくり、情報交換、調整を行うことにより、地域に本当に必要な事業を効率的に実施できます。